

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

男もすなる日記といふものを女もしてみむとてするなり。

その年の師走の二十日あまり一日の日の戌の時に門出す。

そのよし、A いささかにもに書きつく。

ある人、<sup>①</sup> 県の<sup>②</sup> 四年五年果てて、例のことども皆し終へて、

<sup>③</sup> 解由など取りて、住む<sup>④</sup> 館より出でて、船に乗るべき所へ渡

る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。<sup>B</sup> 年ころ、よく比べつる

人々なむ、別れがたく思ひて、日しきりにとかくしつ<sup>C</sup> のの

しるうちに夜ふけぬ。

<sup>⑤</sup> 二十二日に「<sup>⑥</sup> 和泉の国まで。」と平らかに願立つ。藤原の

ときぎね、<sup>⑦</sup> 船路なれど<sup>D</sup> 馬のはなむけす。<sup>E</sup> 上中下<sup>⑧</sup> 酔ひ飽き

て、いとあやしく<sup>⑨</sup> 潮海のほとりにてあざれ合へり。

(1) ~~~ A ~ E の意味をそれぞれ答えなさい。

(2) ① ~ ⑨ の漢字の読みを、現代仮名遣いでそれぞれ答えなさい。

(3) 「師走の二十日あまり一日の日の戌の時」について、次の各問に答えなさい。

(a) この部分全体の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

(b) この部分を次のように訳した。空欄に適する漢数字を答えなさい。ただし、Z は二十四時間制で答えなさい。

X 月 Y 日の Z 時頃

(4) 次の文章の空欄 A ~ K に適切な語を入れなさい。

この文章は、『A』からの引用である。『A』は

I 時代に成立し、ジャンルは ウ に属する。作者の

E は、自らを オ に仮託して カ 文字を用いて書いた。

た。

また、E は『キ』を編纂し、その序文 ク

も書いた。

- (1) A 少しばかり B 長年 C 大騒ぎする  
 D 餞別を送ったり、送別の宴を開いたりすること  
 E 身分の高い者から低い者まで皆
- (2) ① あがた ② よとせいとせ ③ げゆ  
 ④ たち ⑤ はつかあまりふつか ⑥ いずみ  
 ⑦ ふなじ ⑧ え ⑨ しおうみ
- (3) (a) しわすのはつかあまりひとひのいぬのとき  
 (b) X 十二 Y 二十一 Z 二十
- (4) ア 土佐日記 イ 平安 ウ 日記文学  
 エ 紀貫之 オ 女性 カ 仮名  
 キ 古今和歌集 ク 仮名序